

# 2026年度 大会規定および注意事項

福島県高等学校野球連盟

## 大会規定

1. 本大会は当該年度公認野球規則を適用し、今年度からDH制を採用する。ただし、5回表裏完了もしくは5回表終了以降10点差または、7回表裏完了もしくは7回表終了以降7点差以上ある場合にはコールドゲームとするが、決勝戦には適用しない。
2. 降雨等で試合続行不能の場合には、継続試合を適用する。
3. すべての公式戦でタイブレーク制度および投手の投球制限を採用する。これらの運用は、高校野球特別規則に従う。
4. ベンチに入ることのできる責任教師・監督ならびに選手（大会参加者資格規定適格者、20名以内）は、選手資格証明書に記載された者に限る。選手は背番号（1～20）を付けたユニフォームを、責任教師は平服（ワイシャツ・ネクタイ、又は白のスタッフシャツ）を、監督は選手と同じユニフォームを着用すること。ただし、特例としてシートノックを行った責任教師は平服に着替えなくても良い。また、ベンチに入ることのできる記録員（1名、女子可）の資格は選手に準じ、その服装は制服・トレーニングウェアまたは背番号のないユニフォームとする。なお、記録員は、試合開始および終了時または応援席へのあいさつの時以外はベンチから出ないこと。
5. ベンチサイドは組合せ番号の小さい方を1塁側とし、決勝まで適用する。
6. 各チームは試合予定時刻の1時間前までに球場に到着し、本部に報告して待機すること。オーダー用紙の交換と攻守の決定を、試合開始予定時刻の1時間前に行う。その際、大会本部にオーダー用紙（フルネームでフリガナをつける）3部を提出すること。
7. 試合前のシートノックは7分以内とする。ただし、試合進行の都合で省略することもある。開始や終了は放送で合図するので厳守すること。なお、第1試合のシートノック開始時刻は、試合開始予定時刻の30分前とする。シートノックは登録した選手だけで行い、ノックはノッカー（1名、女子部員も可）が行ってもよい。ノッカーは選手と同じユニフォームとスパイク（ポイント底も可）を着用し、シートノック終了後は直ちにグラウンドから退場すること。
8. 大会の使用球は当連盟が認めた試合球とする。
9. 大会の審判は福島県野球連盟の審判委員が行う。
10. 審判員に対するアペールは、規則適用上の疑問を質すときのみであって、主将または問題の当事者に限る。審判員の判定に対しては絶対に服従し、抗議することはできない。
11. オーダー用紙交換後、試合開始前の整列の前までの間に、オーダー用紙に記載された先発出場選手が突発事故に発生により先発出場不能となった場合、控え選手を交代出場させることができる。その場合は、不能となった選手の打順を引き継ぐが、守備位置の変更は認める。また、不能となった選手が回復すれば以後の試合に出場することができる。
12. 試合中選手に不慮の事態がおき、一時走者を代えないと試合が続行できないと審判員が認めたときは、相手チームに事情を説明して、臨時の代走者を決めることができる。代走者は試合に出場している選手に限られるが、投手を除いた選手のうち、直前に打撃を終了した者とする。
13. 試合中の負傷または疾病に対して応急手当を施すが、主催者は責任を負わない。
14. 試合中に紛争がおこり、試合の続行が不可能になったときは紛争を起こした側（応援者も含む）が責任を負い、そのチームを敗者とする。

15. ベンチ内に持ち込めるものは監督指示用のメガホン1本のみ（監督以外の使用は不可）、野球用具以外はベンチに持ち込まないこと。
16. 金属製バットの使用は日本高等学校野球連盟で認可したものに限り、使用野球用具は日本高等学校野球連盟が定めた「高校野球用具の使用制限」で規制したものに限り、
17. 大会前や大会中の負傷で試合出場が不可能になった選手は、試合には出場しない条件でベンチに入ることを認める。その場合、参加の程度については試合前に大会本部に申し出て許可を得ること。
18. 各学校は必ず1名の責任教師が引率し、大会中の選手のすべての行動に対して責任を負うこと。
19. 監督・部長室で待機できるのは、責任教師、監督、ノッカー（1名）に限る。球場内では必ずリボンを着けること。
20. 大会運営の一切については、大会運営委員会の決定・指示に従うこと。

## 注 意 事 項

1. 監督及び選手は試合をスピーディに行うよう心がけること。
  - (1) 全力で走るなどスムーズな攻守交替を心がけること。
  - (2) 投手が審判からボールを受け取る時や打者が打者席に入るときは脱帽しなくともよい。
  - (3) アウトを取ったあとのボール回しは1回以内とする。打者がいるときは盗塁死を取ってもボール回しはしないこと。スリーアウト後のボールは投手板の近くに置くこと。
  - (4) 捕手が投手への返球のため頻繁に捕手席を離れないこと。
  - (5) 監督が選手に指示を伝えるときにはベンチに呼ばず、速やかに伝令を出すこと。
  - (6) 守備に入る前に控え選手がベンチ前で声出しをする際には、ベンチから出過ぎないこと。その目安はベンチから3m程度とする。なお、守備終了時の出迎えも同様とする。
  - (7) 守備時・攻撃時のタイムは、30秒以内とする。
  - (8) イニング間のミーティングは試合進行を妨げないようにスピーディに行うこと。
  - (9) ベースコーチはミーティングサークルに加わらず、ただちにコーチスボックスに入ること。
  - (10) 次打者は速やかに次打者席に入り、待機すること。
  - (11) 2アウト後の次打者が捕手の場合、次打者席ではプロテクターは取り外して待つこと。
  - (12) 打者はベンチのサインを見るとき、打者席をはずさないこと。
  - (13) 走者のヘルメットが脱げたとき、近くにいる審判員がこれを走者に手渡す。原則としてタイムをかけない。
2. 高校生らしいマナーを身につけるように心がけること。
  - (1) ユニフォームの着こなしはチームで統一し、チタンネックレス等はユニフォームから出さないようにすること。
  - (2) サングラスを使用する場合は、シートノック時の用具点検の時に申告すること。なお、「フェイスガード」の使用については、「顔を負傷した際に、医師からそのけがを理由にプレイを禁止されておらず、その旨の診断書を提出した場合にのみ使用を認める」と示されたので、オーダー用紙交換の時に許可を得ること。
  - (3) グラウンドコートの着用は原則、禁止する。ただし、降雨時や夕方以降で、攻撃側の投手が走者になった場合に、審判員の許可を得れば着用できる。また、気温が低い時にも審判員の許可を得ればベンチ内の選手等も着用できる。

- (4) 審判員や選手に対して、暴言やきたないやじをとばさないこと。相手チームに威圧を与える行為や威嚇する発声はしないこと。選手は常に立派な態度でプレイすること。
- (5) 日没や降雨などを意識して、故意に試合を引き延ばさないこと。
- (6) 故意の空タッチや、意図的な強いタッチはしないこと。
- (7) 捕手は、ブロックプレイをしてはいけない。
- (8) 打者は捕手の後方で投球の偵察をしないこと。
- (9) 高校野球での、ハーフスイングに対する捕手からのリクエストは打者を指差し、口頭で”スイング”、”振った”と球審に要請することができる。捕手が一塁や三塁の塁審に対して直接指差してリクエストすることはできない。ただし監督は、打者が振ったか否かについて、ベンチ内から捕手に指示することはできるが、伝令を使うことは禁止する。
- (10) ベースコーチや選手の「セーフ」等の発声やジェスチャーを禁止する。また、ベースコーチがコーチスボックスから片足を出すこと、離れてコーチすることを禁止する。
- (11) 試合中はベンチ内をきれいに使用し、試合後はゴミ等を持ち帰ること。

### 3. 危険防止に努めること。

- (1) 試合前にバットやグリップテープの状態を点検すること。変形したバット、破損したバット、鉄棒、バットリング等はベンチへの持ち込みを禁止する。ただし、マスコットバットの持ち込みは可とする。
- (2) 打者及び走者・ベースコーチは危険防止のため、両耳つきヘルメットを必ずかぶること。ノック補助、バットボーイ、ボールパーソンもヘルメットをかぶること。色彩は黒、紺または白のいずれか一色とし、表面にはチームの校名およびその頭文字、校章、番号以外は表示できない。
- (3) 試合中、練習中を問わず、捕手が座って投手の投球を受けるときは、必ずマスク（スロートガード付）、ヘルメット（色彩等の制限は打者用と同様）、急所カップを着用すること。なお、完全装着が無理なときは、少なくともマスク、ヘルメットだけは着用すること。
- (4) 走者が塁に滑らずに野手に向かってのスライディング、足を上げてのスライディングや体当たり等のラフプレーは絶対に行わないこと。

### 4. その他

- (1) 開会式での入場行進はチームで統一した白一色または黒一色のトレーニングシューズで行うこと。学校名プラカード・校名旗保持者は、チームの登録選手の中から選ぶこと。なお、大会によっては学校名プラカードを部員が保持できることもある。
- (2) 夏の大会で準決勝から行われる公式練習では、統一したユニフォームを着用すること。  
※統一の概念：①試合用ユニフォーム（背番号無しも可）  
②無地の練習着  
③チーム練習用シャツ  
（チーム名・氏名・チームマークは可、その他の文言入りは不可）  
④上下でツートンになるような着こなしは不可
- (3) ユニフォームの表にメーカーのマークが着いていれば取り外すこと。メーカーのマーク等が見えるアンダーシャツは着用できない。スパイクの色彩は黒一色または白一色とする。
- (4) テーピングは肌色に統一する。

- (5) バックネット裏に設けられた撮影禁止区域でのビデオ撮影等を禁止する。
- (6) 第1試合のグラウンド内でのウォーミングアップは、試合開始予定時刻の1時間30分前から可とする。その際、試合で使用する野球用具以外のものを、グラウンド内に持ち込まないこと。その後、1時間前になったら公式戦用のユニフォームを着用すること。なお、グラウンド内でアップやキャッチボール等ができるのは登録選手に限る。
- (7) 芝生養生のため、外野でのウォーミングアップ等はトレーニングシューズで行うこと。また、芝生上からスパイクを履いてのノックは禁止とするが、トレーニングシューズでもできるだけ土の上でノックすること。
- (8) 第2試合以降の試合前の遠投は、3分以内で交互に行い、後攻のチームが先に行う。
- (9) シートノック時のノック補助を3名まで認める。ノック補助は、ノック中にノッカーにボールを渡したり、ボールを集めたりするだけでなく、1塁または3塁ベース付近で送球を受けることもできる。服装はユニフォームとし、トレーニングシューズ並びに自チームヘルメットを着用すること。登録選手がノック補助を行う場合も、ヘルメットを着用すること。なお、マネージャー（男女共）の服装はトレーニングウェアも認める。
- (10) 試合前のサイドノックをノッカー（1名）が行うことや、それにノック補助（3名以内）が入ることも可とする。このとき補助として認められるのは、ボール渡し、ボール拾い、ボール集め等で、投手の投球や野手の送球を捕球することはできない。
- (11) 相手チームがノック中の時は、ベンチから出ないこと。
- (12) シートノック終了後及び5回終了時のグラウンド整備中の応援を禁止する。
- (13) 試合前の声出し等はベンチ前で行うこと。スタンドの控え部員のところまで行かないこと。
- (14) グラウンド内のボールパーソン（3名）については、自チームで出すこと。また、打者用ロジンについても準備すること。なお、ボールパーソン3名を出せないチームは、オーダー用紙交換時に大会本部に申し出ること。
- (15) 試合の運営、進行には当該両チームが積極的に協力すること。
- ① 試合中のグラウンド内のファールボールについては両チームで拾うこと。尚、全ての球場の外野にボールパーソンを置く。その服装はノック補助に準じる。
- ② 試合前のグラウンド整備については大会補助員が行うが、試合終了後の整備については、勝利チームの登録選手全員で行うこと。
- ③ 5回終了時のグラウンド整備については、原則、次の通りとする。
- 1 塁側チーム：1 塁ベース周辺・・・・・・・・・・ 2 人  
2 塁ベース付近から1 塁ベース寄り・・・・ 3 人
- 3 塁側チーム：3 塁ベース周辺・・・・・・・・・・ 2 人  
2 塁ベース付近から3 塁ベース寄り・・・・ 3 人
- ただし、部員が14人に満たない場合は、事前に大会本部に申し出ること。
- (16) 次打者席にマスコットバット1本を入れてもよい。
- (17) エルボーガード等は、進塁先のベース上で外すこと。
- (18) 障がい者のための駐車場を各球場で確保する。
- (19) 応援については別に定める。